

『中央学術研究所紀要』第47号抜刷  
平成30年11月15日発行

全パーリ聖典総語彙索引作成の研究  
—パーリ文献協会編纂文献に基づいて—

西 康 友・逢 坂 雄 美

# 全パーリ聖典総語彙索引作成の研究

—パーリ文献協会編纂文献に基づいて—

西 康 友  
逢 坂 雄 美

- 1 概要
- 2 研究の学術的背景と意義
- 3 研究目的
  - 3.1 本研究の具体的目標
  - 3.2 研究計画・手法
    - 仏典の電子化テキスト作成
    - 電子化テキストの言語学的精査・検討
    - 信頼できる電子化テキスト
    - 索引の刊行（*Philosophica Asiatica Monograph Series* 等）
    - 完全な総索引の作成
  - 3.3 共同研究の役割分担
    - 初期仏典と大乘仏典の関連
    - PTS との連携と総索引 PTWI 作成
    - 海外共同研究者（PTS）による電子化テキスト提供と出版
- 4 学術的独自性と研究の現状
- 5 本研究の着想に至った経緯
  - これまでの研究活動
  - 本研究の着想に至った経緯
  - 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ
  - 準備状況と実行可能性
  - 波及効果・拡張性：MIA 研究のパラダイム構築
- 6 研究業績

## 1 概要

我々は、言語学研究者と情報処理の専門家が連携し、中期インド・アリアン語（Mid-

dle Indo-Aryan, MIA) 古文献を有機的に解析できる各種索引作成ツール・韻律解析ツールを開発し、英国パーリ文献協会(The Pali Text Society, PTS)より出版されたパーリ聖典全体の約70%および他の文献の語彙索引を作成してきた。残り30%のパーリ聖典の索引を作成し、作成済みパーリ文献索引との合本により、網羅的な語彙索引(“A Pali Tipitaka Word-Index”)を作成する。本索引は、国内外のパーリ・ヴェーダ研究者達からその完成を切望されていた基盤資料である。パーリ聖典研究者は、これを出発点として、原典をあたり、訳し、考えをまとめ、発表し、論文を書くという一連の研究の根幹部分を構築することが可能となる。本索引は、既刊の“A Vedic Word-Concordance”のような、非常に重要かつ有名な大著に類似の位置付けにある。本索引等の作成により、初期仏典を含むMIA古文献研究のパラダイムシフトを惹起し、当該研究を飛躍的に発展させることが可能となることが期待される。本稿では関連研究を総合的にまとめている。

## 2 研究の学術的背景と意義

MIAで書かれた古文献は、初期仏典(パーリ語)を初め、ジャイナ教聖典(アルダ・マガダ語)や大乘仏典(仏教混淆梵語: Buddhist Hybrid Sanskrit, BHS)等がその代表例であるが、世界文化の源流の一つであり、貴重な人類の知的文化遺産である。

初期仏教やジャイナ教は、反バラモンの立場を主張する沙門の共同体から輩出したため、(1)教団組織・実践倫理・教理の形態に類似点が多く、両教の比較研究が不可欠である。各教の文献は、広大な地域(印度・アジア大陸)と長期間(BC5-近代)に亘って編纂され、伝承されたという経緯から、(2)両教において解決すべき文献学的問題を数多く残しているものばかりである。これら古層聖典を研究するに当たっては、まず厳密な校訂本が必要となり、その校訂本に基づいて翻訳がなされ、内容の検討をすることが当然の手続きとなる。翻訳をする場合、文法はもとより、語彙、詩脚(pāda)、韻律解析、構文論等の組織的研究(第一次基礎資料構築)が要求される。初期仏典(パーリ語)については世界的な中心研究機関であるPTSが一貫した編纂方針の下に重要なパーリ聖典類について刊行してきた(表Ⅱ)。これ等の貴重な文献蓄積が在って初めて、上記(1)、(2)の解明に必要な第一次基礎資料作成・研究を効率的に推進可能となる<sup>1</sup>。

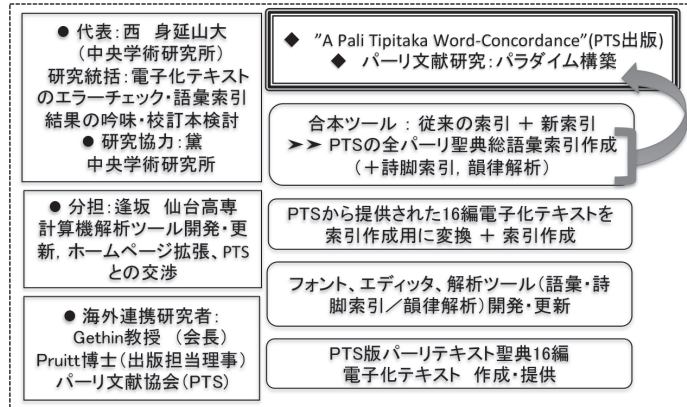
当該グループ(山崎守一・中央学術研究所顧問、逢坂雄美・仙台高等専門学校名誉教授、宮尾正大・室蘭工業大学名誉教授)は1990年代初頭から語彙、構文論等の組織

<sup>1</sup> K. R. Norman, “The present state of Pāli studies, and future tasks”, 『中央学術研究所紀要』第23号、1994年(1) ff; 研究業績26序文、研究業績41序文。

的研究にPCを導入し、言語学研究者と情報処理の専門家が連携し学際的な研究グループを立ち上げ（表I）、MIA古文書を系統的に解析できる特殊フォント・エディタ・索引作成ツール・韻律解析ツール等を開発した<sup>2</sup>。

この当時PTS会長K. R. Norman から律蔵 (Vinaya-piṭaka) の語彙索引作成依頼があった。これは19世紀後半から渴望されており、我々は開発ツールを使用して短期間に作成・出版できた。これ以降継続的にPTS文献の電子版の提供を受け、約70%に及ぶ下記文献（表IIのグレイ枠以外の文献）の語彙索引をPTSより出版済みである<sup>3</sup>：三蔵 (Tipiṭaka) 中

表I 言語研究者と情報処理専門家との共同研究連携



表II 未刊のパーリ聖典索引（グレイ枠）

The Pāli Canon ( Number of indexed pages, 12,260)				
Tipiṭaka	Vinaya-piṭaka	1511		
	Sutta-piṭaka	Dīgha-nikāya,		
		Majjhima-nikāya		
		Saṃyutta-nikāya		
		Āṅguttara-nikāya		
		Khuddaka-nikāya	Dhammapada	including some critical editions
			Suttanipāta	
Theragāthā & Therīgāthā				
Jātaka				
		Number of non indexed texts, 9		
Abhidhamma-piṭaka	Number of non indexed texts, 7	(Number of non indexed pages, 4,097)		
others	Visuddhimagga			
	Milindapañha			

の①律蔵 (Vinaya-piṭaka)、②経蔵 (Sutta-piṭaka) の4 nikāya、③蔵外の重要文献 *Visuddhimagga*, *Milindapañha*。上記研究と同時並行で、中央学術研究所 (CARI) の支援のもと、初期仏教とジャイナ教聖典の比較研究やこれらの文献学的問題の解決・解明に必要な以下の第一次基礎資料作成も作成・配布している：(a) Khuddaka-nikāya のうち *Dhammapada*, *Suttanipāta*, *Theragāthā*, *Therīgāthā* の総語彙索引と総詩脚索引（所謂2種類

<sup>2</sup> Study of Canons in Middle Indo-Aryan and Canons in Buddhism: <http://www.cari.ne.jp/MyanmarPJ/EngH.html>.

<sup>3</sup> 研究業績34、31等。

の索引<sup>4</sup>;(b) 大乘仏典文献 (BHS) で最古層とされる *Mahāvastu*<sup>5</sup>、および初期大乘経典の一つである *Vimalakīrti-nirdeśa* (梵文維摩経、Vkn) の正順と逆順語彙索引<sup>6</sup>;(c) ジャイナ教五大聖典 (*Āyāraṅga*、*Sūyagaḍa*、*Isibhāsiyāim*、*Uttarajjhāyā*、*Dasaveyāliya*) の総語彙索引・総詩脚索。

これらの第一次基礎資料群は個々の宗教文献を研究する上で不可欠なデータであるが、研究開始当初からの懸案事項、(1)教団組織・実践倫理・教理の形態に類似点多く、両教の比較研究が不可欠であること、(2)両教において解決すべき文献学的問題を数多く残していることへの処方箋には、各宗教経典の総語彙索引 (仏典総索引) および第一次基礎資料 (正確な電子化テキスト・

韻律解析結果・詩脚索引等) の完備が不可欠である。当該資料の完備は MIA 文献研究のブレイクスルーにつながると同時に、新パラダイム構築に繋がってくる (表 I)。著名なパーリ学文献研究者から、PTS のパーリ聖典の残り約 30% の文献 (表 III のグレイ枠) 索引作成についての必要性を指摘された<sup>7</sup> ことを契機として、この認識に至った。

### 3 研究目的

本研究では、最近の ICT 時代の要請に沿って、PTS の全パーリ聖典の語彙索引を 1 つに纏めたパーリ総語彙索引 (“A Pali Tipitaka Word-Index” : PTWI) を CD/DVD の媒体での作成・公開することを目指す。我々のツールにより、同一基準の下に作成された従来の語彙索引を簡単に合本出来ることを確認している (表 IV)。現在 PTS で作成中の *A Dictionary of Pāli*<sup>8</sup> は勿論全語彙をカバーしていないが、本研究で作成する総索

表 III 既刊のパーリ聖典索引 (グレイ枠以外)

	Name	page number
Sutta-piṭaka/ Khuddaka-nikāya	Khuddaka-pāṭha	9
	Udāna	94
	Itivuttaka	124
	Vimānavatthu	135
	Petavatthu	95
	Niddesa	508 + 73
	Paṭisambhidāmagga	196
	Apadāna	615
	Buddhavaṃsa	102
	Cariyāpiṭaka	37
Abhidhamma-piṭaka	Dhammasaṅgaṇi	264
	Vibhaṅga	436
	Dhātukathā	113
	Puggalapaññatti	74
	Kathāvatthu	628
	Yamaka	378 + 215
	Paṭṭhāna	229 + 353
Number of non indexed pages		4097

<sup>4</sup> 研究業績 26、27。詩脚索引拡張については、第 5 章「本研究の着想に至った経緯 - 波及効果・拡張性 : MIA 研究のパラダイム構築」。

<sup>5</sup> 研究業績 19。

<sup>6</sup> 研究業績 1。

<sup>7</sup> 第 5 章「本研究の着想に至った経緯」。

<sup>8</sup> Prof. R. Gethin of PTS President (Private communication) : I think the idea of a concordance still makes some sense. Although we can conveniently and easily carry out electronic searches these days, a printed (or DVD) concordance still usefully gives a sense of common/rare words/forms.

引は全語彙を包含している。この意味で、両資料はお互いに補完し合う重要な関係にある。この総索引作成について PTS 会長・Prof. Rupert Gethin と出版担当責任者 Dr. William Pruitt と協議した。本稿注 8 の私信に記載されている見解に基づき、共同研究推進の合意が得られた<sup>9</sup>。

表Ⅳ “A Pali Tipitaka Word-Index” の鳥瞰的示唆・視点

同一語幹	antallikkhassim JA: III.481-16	文献名 出現箇所	37-22-25; II.138-9-11; II.164-15 MN;
	antallikkhā Vin: I.240-8-23; I.241-11; II.238-2; II.239-2 III.123-12 AN; IV.199-8-11; IV.202-23		
	antallikkhe Vin: I.180-26-28; IV.54-23		DN: II.138-2-3-13 A5; II.211-4-8; II.230-14-18; III.200-23 SN;
	151-13; I.81-16 AN; III.239-26; V.60-8 JA; 1.43-17; 1.66-2; 1.116-13; III.146-14; III.219-2; III.460-6; IV.338-26; IV.339-7; IV.425-21; V.14-23; V.137-9-23; V.169-11; V.203-2; V.204-12; VI.268- *28; VI.272-20-24; VI.302-26; VI.313-13; VI.327-5; VI.476-8 KN; Sn: 222-236-237-238-688;		
	Dhp: 127-128 Vism: 383-25; 388-4; 397-10-14 Mil: 50-23; 151-6-11; 380-28; 381-7		
	antallikkhecārā JA: V.374-4		
	antallikkhecāro JA: III.460-1		
	antallikkheṇā JA: VI.439-30; VI.440-8		
	antallikkheṇā JA: VI.440-8		
	antallikkho JA: III.292-13		
antallikhe JA: VI.271-16			
antavaggo SN: III.157-23; III.162-12			

鳥瞰的視点・視座

### 3.1 本研究の具体的目標

PTS が編纂しているパーリ聖典で索引が未作成である大小16文献（表Ⅱ）の索引を作成し、その後、PTS 版全パーリ聖典の総語彙索引 PTWI 作成を 3 年目処に完成する。紙媒体では A4 で 1 万頁程度になるので、CD/DVD の媒体での公開を検討する。

### 3.2 研究計画・手法

#### ● 仏典の電子化テキスト作成

精密な電子化テキスト作成が最も労力・時間を要する部分である。PTS では、現在上記16文献について信頼出来る電子化テキストを未作成である。ダンマカーヤ・ファンデーション（タイ）で作成された電子化ファイルを、PTS 基準に準拠して PTS の責任により編纂・作成する。Dr. W. Pruitt と綿密な打ち合わせ（電子化テキスト作成とそのテキストチェックは 1 冊につき約 2 週間必要）に基づき、上記16編の電子化テキストを下記年度計画の元に作成する：

- (0) PTS は2017年度から電子化テキスト作成を進めることとし、この年度では 3 編を作成した。
- (1) 2018年度には 5 編のテキスト作成・受領を予定している。
- (2) 2019年度には 5 編のテキストの作成・受領を予定している。
- (3) 2020年度には残り 3 編のテキストの作成・受領を予定し、本索引 PTWI の完成を目指す。

#### ● 電子化テキストの言語学的精査・検討

この電子化テキストはそのままでは索引作成に使用できず、言語学知識に基づく厳密な校正が必要である。さらに、計算機ツールによる索引作成のために付加情報入力

<sup>9</sup> M. Cone 2001 (Vol. I, Oxford); 2010 (Vol. II, Bristol), *A Dictionary of Pali*, the Pali Text Society.

を人力でする必要がある。正確な処理作業が索引の精度を決定する。

- 信頼できる電子化テキスト

PTS より一つの文献の電子化テキスト作成ごとに受領して、前段の作業を経て作成されたファイルを次のように徹底的にチェックして、信頼出来るファイルを効率的に作成する：紙媒体との比較によるチェック、予備的索引作成によるチェックを数回繰り返す<sup>10</sup>。

- 索引の刊行（Philosophica Asiatica Monograph Series 等）

信頼できる電子化テキストを作成後に、語彙索引を作成して、CARI から適当な数の文献分を纏めて索引を出版する。

- 完全な総索引の作成

この確認作業を経て、完全な本索引 PTWI を作成する。作成済みのツールで単体索引からPTWIを作成するのは、極めて短時間で出来る<sup>11</sup>。3年間の予定期間内で完全なPTWIをCD/DVD形式で作成し、PTSから刊行する予定である。

### 3.3 共同研究の役割分担

- 初期仏典と大乘仏典の関連

西は博士学位請求論文『法華経における方便思想の研究』（仏教学・大正大学、2010年）において初期仏典（パーリ文献）と初期大乘仏典（BHS）を取り扱っている。多数の写本が存する梵文法華経（*Saddharmapundarika* : SP、67種類の写本・断簡が現存）の研究深化には、語彙索引・諸解析ツール（詩脚索引作成・韻律解析）の自由自在な活用が必須と認識し、文献学者としてこれらをワープロ並みに自在活用出来るように、その習得に努めている<sup>12</sup>。

総語彙索引 PTWI を有効活用するという新視点は、Kern-Edgerton の提唱・辻の指摘等<sup>13</sup>の検証に有効な重要語彙の抽出に威力を発揮している<sup>14</sup>。その他、逢坂が主導していたこれまでのプロジェクトでPTSとの連携会議に出席し、海外連携研究者との信頼

<sup>10</sup> 【開発ツールの有機的関連性】

- (1) 語彙索引・逆順語彙索引によりテキストの入力ミスやテキストの特異性を見つけることが出来る。
- (2) 韻律解析によりテキストの入力ミス・韻律異常のチェックを簡単にできる。
- (3) 又、言語学者は(2)により単調且つ長時間の長音短音分解作業をする必要がなくなり、半詩偈を効率的に詩脚（pāda）に分割出来る。
- (4) 詩脚分割されたテキストを詩脚索引プログラムに入力することにより、正順詩脚索引・逆順詩脚索引を作成出来る。
- (5) 一連のこのような作業を適当なだけ繰り返すことにより、正確な電子化テキストや基礎資料を効率よく作成出来る。

<sup>11</sup> 第5章「本研究の着想に至った経緯－準備状況と実行可能性」。

<sup>12</sup> 研究業績1、2、4、11。

関係を構築済みであるので、統括作業（上記3.2.2-3.2.5を担当）が可能な状態であり、さらに、CARI から索引出版等の作業を担当する。なお、黛千洋（CARI 客員研究員）は計算機（言語解析）ツールの整備・拡張の支援をする。

- PTS との連携と総索引 PTWI 作成

逢坂は PTS・CARI と連携してこれまで40冊以上の索引作成・出版してきている経験を活かし、上記3.2.1の調整を済ませているので、この業務を引き続き担当する。西の補佐業務と共に、テキストの特性に応じたプログラムツールの変更・手直しを遂行する。

- 海外共同研究者（PTS）による電子化テキスト提供と出版

これが PTS と研究グループを構成した要因である。W. Pruitt 博士は PTS における電子化テキスト等の責任者である。同氏は R. Gethin 会長と共に、我々との共同作業・プロジェクト推進を経験済である。

## 4 学術的独自性と研究の現状

電子計算機を用いた方法に、電子化テキストが Web 上で公開されていることから、PC検索で間に合うので、索引はもう古いのではないのかという疑問がある。本稿表Ⅳ「“A Pali Tipitaka Word-Index” の鳥瞰的示唆・視点」を参照されたい。この表に示している十数冊以上の検索機能はPC検索では不可能であることが良く分かるであろう。また、この疑問はこの事例からも分かるように、明らかに総索引の重要性を軽視し、認識不足である<sup>15</sup>。

2014年発行の *Dhammapada*, eds., O. von Hinüber and K. R. Norman<sup>16</sup>には、1995年発行の4索引（語彙の順列・逆列索引、詩脚の順列・逆列索引）が合本されており、高い評価を受けている。この流れに沿った形で、語彙索引を付加した他のパーリ文献も最近出版されている<sup>17</sup>。

<sup>13</sup> H. Kern や F. Edgerton らによると、SP はもともと MIA で編纂され伝承過程で梵語化されたと考えられている：H. Kern, “Preface.”, H. Kern and B. Nanjio 1908-1912, I-XII.; F. Edgerton 1953, “Buddhist Hybrid Sanskrit”, *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar*, Motilal Banarsidass, Delhi, § 1.33ff. and etc.

この詳細については Y. Nishi 2019, “Examining the Sanskritization of *Saddharmapundarika* – A Study of Synonyms in the Text –”, *Journal of Indian and Buddhist Studies* 67(3) (in print).、および本紀要所収の西康友「梵文法華經写本編纂過程における梵語化の検証法－全写本・断簡ローマ字転写校訂本総索引の必要性－」を参照。

<sup>14</sup> 研究業績3、6-8、13。

<sup>15</sup> 第2章「研究の学術的背景と意義」。

<sup>16</sup> 研究業績9。

<sup>17</sup> 研究業績5、12。



代表者の西は最近、SPについて、(実質的な)総語彙索引を使って、Kern-Edgertonの提唱・辻の指摘等を検証した<sup>18</sup>。これらの研究は「総語彙索引を有効活用した文献研究」という新視点に立脚して得られた重要な展開であり、大乘仏典等の研究に威力を発揮すると期待される。数十冊にも上る経典から正確に単語・その類似語の情報を抽出することが必要であるが、上記例のように単なるPC画面上の単語検索では殆ど不可能である。

## 5 本研究の着想に至った経緯

### ● これまでの研究活動

本稿第2章「研究の学術的背景と意義」において述べたように、1990年代初頭からMIA古文献を系統的に解析できる特殊フォント・エディタ・諸解析ツール等を開発し、ジャイナ教・初期仏教文献の索引を効率的に作成してきた。当時より我々の解析ツール<sup>19</sup>は世界でも唯一のものであったが、その後も改善・拡張を続け、そのプログラムコードも含めてHP(脚注2)にて公開している。各文献ごとに最適な仏教関連研究機関・研究者と連携して、信頼出来る電子化テキストの提供を受けて、第一次基礎資料(語彙及び詩脚の索引)を効率よく作成した。CARIからは、これまで関連索引を30冊以上出版・公開している。PTS編纂パリー聖典群のおよそ70%の文献を含めて索引作成したMIA文献は頁数に換算して約15,000頁にも達しており、本研究での索引作成予定文献頁数は約4,500頁であるので、期間内での目的達成は十分可能な状況にある。

### ● 本研究の着想に至った経緯

本稿第1章「概要」で述べたように、パリー学の著名な研究者から、「個々の重要なパリー経典の語彙索引は作成されているが、網羅的な索引(“A Pali Tipitaka Word-Index”)は未作成である」との指摘を受けた。この研究は、ヴェーダ学の若手研究者からも熱烈な支持を受けた。研究開始当初からの懸案事項(1)教団組織・実践倫理・教理の形態に類似点が多く、両教の比較研究が不可欠である；(2)両教において解決すべき文献学の問題点を数多く残しているについては、各教の総索引を作成して、それ等に基づき研究を進めることにより解決出来る、との認識に至った。

### ● 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

最近、仏教学新知識基盤の構築として、次世代人文学の先進的モデルの提示<sup>20</sup>の研究組織が構築されている。

---

<sup>18</sup> 研究業績3、7、および本稿脚注13。

<sup>19</sup> 脚注9【開発ツールの有機的関連性】。

<sup>20</sup> Prof. M. Shimoda, et al.,「仏教学新知識基盤の構築-次世代人文学の先進的モデルの提示」：<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-15H05725/>。

大がかりなデータベース READ<sup>21</sup>が構築されつつある：写本イメージ、ローマ字化テキストの情報等が意味論的に多角的リンクされている。

1995年 PTS は網羅的ではないが重要な単語・語句を収録した3巻本 “*Pali Tipitaka Concordance*” (総2391頁) を出版している。当時 K. R. Norman PTS 会長より *Vinaya-pitaka* の語彙索引作成依頼を受け、その後の3大 Piṭaka 等の主要文献の語彙索引作成に繋がった<sup>22</sup>。

同じく PTS より、コーン博士による “*A Dictionary of Pāli*” (4巻本中2巻発刊済みであり、3巻目は1-2年以内に発刊予定) が刊行されている。

上記のこのような状況下で、Gethin 現会長等は我々の “*A Pali Tipitaka Word-Index*” 作成意義 (研究基盤のパラダイムシフト実現) を認識し (脚注8)、PTS 基準により編纂された全パーリ聖典の総索引作成事業への支援を決めた。

最近、タイ・カンボジア・ベトナム・ミャンマー等で仏教学文献の収録・データベース作成が盛んになってきた。これは K. R. Norman・PTS 元会長の指摘「従来のパーリ文献は東南アジアで発見されるパーリ文献によって校訂されるべきである」ことに貢献する可能性がある。我々は PTS と連携して最近ミャンマー僧院のビルマ文字等仏教写本を収録・デジタルブック作成・カタログ作成をほぼ終了し、トロント大学のウェブページに DB を構築中である<sup>23</sup>。これらのパーリ文献の校訂・ローマ字転写テキスト作成に、我々の “*A Pali Tipitaka Word-Concordance*” が貢献できると期待される。

#### ● 準備状況と実行可能性

##### (1) ツール検証

パーリ学の著名な研究者からの指摘を受けた後で、これまで収録したパーリ聖典 (予定文献のおよそ70%) の個々のデータを読み込み、開発した索引作成合本ツールを使用して、プレリミナリな “*A Pali Tipitaka Word-Index*” 作成の可否を調べた結果、総量 20MB (A4 サイズ、10ポイント印字で約5500頁) の大ファイルを問題なく作成出来た。

##### (2) プログラム活用能力向上で研究効率アップ

最近の活発な共同研究により (脚注10)、文献研究者のプログラム運用能力等が数段向上した。この結果、共同研究者のすべてが同レベルでプログラム関連処理作業<sup>24</sup>を遂行出来、研究効率が格段に向上した。従って予定期間内に、大小16文献個々の索引を作成し、最終的に総索引 PTWI を作成可能である。

##### (3) PTS 版大小16編の文献の電子化テキストの先行作成依頼・受領手配

<sup>21</sup> Research Environment for Ancient Documents, Dr. M. Allon (Sydeny) etc.: <https://gandhari.org/blog/?p=251>.

<sup>22</sup> 第2章「研究の学術的背景と意義」。

<sup>23</sup> W. Pruitt 2017, *The Project to Digitize Manuscripts in Myanmar*, the Bulletin of CARI Vol. 46, 111-113.

<sup>24</sup> 3.2「研究計画・手法」。

従来の文献は殆どPTSで作成済みの電子化テキストを無料で提供された。未収録文献の電子化ファイルの作成経費を本プロジェクトで負担する予定で、2017年度より先行作成依頼済みである。

経験上、テキスト作成等の単純作業を常時遂行するよりは、下記のような輻輳する研究と連携させることにより、逆に関連する研究を効率的に遂行出来ることが期待される。

● 波及効果・拡張性：MIA 研究のパラダイム構築

(1) 詩脚総索引を一層拡充

既に作成済みのPTS版パーリ聖典の詩脚索引<sup>25</sup>に、*Samyutta-nikāya* 詩脚データを追加した索引を2017年秋にHPに公開している。今後、*Jātaka*の詩脚データも追加する。これらの資料と、下記「準備状況と実行可能性」の(2)、(3)、(4)文献との関連性について検証することにより、興味深い結論が導かれる可能性がある。

(2) 初期大乘仏典の主要文献の総索引作成

上記作成についても検討<sup>26</sup>し、梵文般若経 (AsP)・Vkn・梵文華嚴経 (Dbh, Gv) などの編纂過程解明に適用する。Vknの写本ローマ字転写校訂本に忠実な語彙索引を作成出来るように(âi, âu,...)等を追加して特殊フォント Pali96を拡張し、各種索引ツールを更新した。これらの拡張処理により、他の文典の処理も可能となった。大乘仏典で最古層とされる *Mahāvastu*、Vkn 語彙索引はすでに刊行済みであり、AsP、Dbh、Gvの電子化テキストを入手済みであり、解析ツール用に電子化テキストを整えて、解析を実行する。

(3) 梵文法華経写本ローマ字校訂本全67編の総覧的索引作成検討と編纂過程研究

上記研究の基準テキスト『ケルン南條本』の電子化テキストは作成済みであり、これを元に他の写本の電子化テキストを作成して、語彙索引を作成する。法華経は大乘仏教の代表經典であることから、法華経研究だけでなく、他の大乘仏典にも適用できる研究であり、多大な貢献が期待される。

(4) チベット語主要仏典の総索引作成準備と編纂過程研究

本研究は、チベット文字からのワイリー方式アルファベット翻字を含むように、我々の特殊フォント Pali96を更に拡張する：ng、tsh等を一塊(いわゆる1バイトコード割り当て)の文字として処理出来るようにする。従来の解析ツールをチベット語文法に基づき拡張する。当該分野の専門家より、電子ファイルの提供を受けて、チベット語法華経写本の電子化テキスト12本を作成して総索引を作成することができる。将来的に他のチベット語仏典にも同様な手法を用いて総索引作成が可能である。

<sup>25</sup> 研究業績26；第2章「研究の学術的背景と意義」。

<sup>26</sup> 第2章(b)。

本研究により作成される網羅的な索引 “A Pali Tipitaka Word-Index と(1)-(4)等の研究を更に拡充することにより、MIA古文献研究のためにより充実したパラダイムを構築し、K.R. Norman・PTS 元会長が1990年代当初に指摘していた関連宗教間の組織・実践倫理・教理形態等の類似点・差異や、個々の宗教文献研究課題(1)教団組織・実践倫理・教理の形態に類似点が多く、両教の比較研究が不可欠である、および(2)両教において解決すべき文献学的問題を数多く残していることの解明を推進することが可能となる。

## 6 研究業績

- 1 *Vimalakīrti-nirdeśa: Metre analysis, word index and reverse word index*, Philosophica Asiatica, Monograph Series 3 (2nd edition) (Dec. 2017) 128pp., Yasutomo Nishi and Yumi Ousaka.
- 2 *Jinālaṅkara: Metre Analysis, pāda index and word index*, Philosophica Asiatica, Monograph Series 2, (2nd edition) (Dec. 2017) 80pp., Yasutomo Nishi and Yumi Ousaka.
- 3 梵文「法華経」における *sāntika-* / *santika-* / *antika-* の用例、『印度学仏教学研究』、第46巻、(103)–(107)、西 康友、2017、(103)–(107)。
- 4 “Automatic Analysis of the Canon in Middle Indo-Aryan by Personal Computer IV”, Bulletin of Chuo Academic Research Institute Vol. 46 (2017) Y. Ousaka and Y. Nishi, 97–105.
- 5 *Paramatthadīpanī III (Vimānavatthu Commentary)*, eds. Peter Jackson and Yumi Ousaka, Pali Text Society (Bristol, 2016).
- 6 “On the Skilful Means in *Saddharmapuṇḍarīka*: Centered on Chapter II”, 『三友健容博士古稀記念論文集』、(544)–(556) 2016-03、西 康友。
- 7 中央アジア系写本の梵文「法華経」における *krīḍāpanaka-* について、『東洋文化研究所所報』、第19号、1–18、2015-04、西 康友。
- 8 中央アジア系写本の梵文「法華経」訳注研究 – *Upamā-parivarta* – (2), 『中央学術研究所紀要』、第43号、145–159、2014-11、西 康友。
- 9 *Dhammapada*, eds. O. von Hinüber and K.R. Norman (with Indexes by M. Yamazaki, Y. Ousaka & M. Miyao), 91–230, Pali Text Society (Bristol, 2014).
- 10 *Index to the Aṅguttara-nikāya*, Pali Text Society (Bristol, 2014) 631pp., S. Kasamatsu, Y. Kawasaki and Y. Ousaka.
- 11 *Index to the Milindapañha*, Pali Text Society (Bristol, 2013) 311pp. +x, S. Kasamatsu, Y. Nishi, Y. Kawasaki and Y. Ousaka.
- 12 *Kaccayana and Kaccayanavutti*, ed. Ole Holten Pind with an index compiled by S. Kasa-

- matsu and Y. Ousaka, 227–326, Pali Text Society (Bristol, 2013).
- 13 中央アジア系写本の梵文「法華経」訳注研究 – Upamā-parivarta –, 『中央学術研究所紀要』、第42号、73–82、2013-11、西 康友。
  - 14 法華経の成立過程についての一試論、『宗教研究』、86巻4輯、954–955、2013-03、西 康友。
  - 15 *Saddharmapuṇḍarīka: Pāda index and reverse Pāda index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 27 (2011) 203pp., Y. Nishi, S. Kasamatsu and Y. Ousaka.
  - 16 法華経における根源的概念、『大正大学大学院研究論集』、第35号、92–86、2011-02、西 康友。
  - 17 *Index to the Saṃyutta-nikāya*, Pali Text Society (Bristol, 2010) 669pp. +x, S. Kasamatsu, Y. Kawasaki, M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 18 *Toward a critical edition of Saṃyutta-nikāya*, Philologica Asiatica, Monograph Series 26 (2010) 54pp., S. Kasamatsu, Y. Kawasaki, M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 19 *Mahāvastu-avadāna: word index and reverse word index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 25 (2009) 801pp., Emmanuel Fauré, B. Oguibenine, M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 20 *Saṃyutta-nikāya I: Pāda Index and Reverse Pāda Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 24 (2008), 137pp., S. Kasamatsu, M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 21 *Index to the Majjhima-nikāya*, Pali Text Society (Oxford, 2006) 473pp. +x, M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 22 *Automatic Analysis of the Canon in Middle Indo-Aryan by Personal Computer II: in both Japanese and English, with Jar Files and Their Java Programs by Java for Macintosh OSX, Windows XP, and Linux on CD-ROM*, Philologica Asiatica, Monograph Series 21 (2005) 85pp., Y. Ousaka.
  - 23 *Index to the Visuddhimagga*, Pali Text Society (Oxford, 2004) 505pp., Y. Ousaka and M. Yamazaki.
  - 24 *Index to the Jātaka*, Pali Text Society (Oxford, 2003), 729pp. (A4 Size), M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 25 “Genealogical Classification of Saddharmapuṇḍarīka Manuscripts Based on Many-Variable Analysis”, *Literary and Linguistic Computing* 11 (2002) 9–17, 査読有, Y. Ousaka and M. Yamazaki.
  - 26 *A Pāda Index and Reverse Pāda Index to Early Pali Canonical Texts*, Kosei Publishing Company (Tokyo, 2000) 571pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 27 *A word index to early Pali canonical texts*, Philologica Asiatica, Monograph Series 16 (2000) 133pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
  - 28 *A word index and reverse word index to early Jain canonical texts*, Philologica Asiatica,

- Monograph Series 15 (1999) 410pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 29 *Sutta-nipāta: pāda index and reverse pāda index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 14 (1998) 172pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 30 *Theragāthā: pada index and reverse pada index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 12 (1997) 224pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 31 *Index to the Dīgha-nikāya*, Pali Text Society (Oxford, 1997) 357pp., M. Yamazaki, Y. Ousaka, K. R. Norman and M. Cone.
- 32 “Automatic Analysis of the Canon in Middle Indo-Aryan by Personal Computer II”, *Literary and Linguistic Computing* 11 (1996) 9–17, Y. Ousaka and M. Yamazaki.
- 33 *Uttarajjhāyā : Word Index and Reverse Word Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 11 (1997) 302pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 34 *Index to the Vinaya-piṭaka*, Pali Text Society (Oxford, 1996) 700pp., Y. Ousaka, M. Yamazaki and K. R. Norman.
- 35 *Sūyagāḍa : Word Index and Reverse Word Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 9 (1996) 135pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 36 *Āyāraṅga : Word Index and Reverse Word Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 8 (1996) 105pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 37 *Indexes to the Dhammapada*, Pali Text Society (Oxford, 1995) 139pp., M. Yamazaki, Y. Ousaka and M. Miyao.
- 38 *A Pāda Index and Reverse Pāda Index to Early Jain Canons*, Kosei Publishing Company (Tokyo, 1995) 537pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 39 *Dasaveyāliya : Word Index and Reverse Word Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 6 (1995), 110pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 40 *Uttarajjhāyā: Pāda Index and Reverse Pāda Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 5 (1995) 263pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 41 “Automatic Analysis of the Canon in Middle Indo-Aryan by Personal Computer”, *Literary and Linguistic Computing* 9 (1994) 125–136, Y. Ousaka, M. Yamazaki and M. Miyao.
- 42 *Isibhāsiyāim : Pāda Index and Reverse Pāda Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 2 (1994) 91pp., M. Yamazaki and Y. Ousaka.
- 43 *Dasaveyāliya : Pāda Index and Reverse Pāda Index*, Philologica Asiatica, Monograph Series 1 (1994) 95pp., M. Yamazaki, Y. Ousaka and M. Miyao.